

# 発掘調査した後はどうなるの？

現地では、各調査区での考古学および埋蔵文化財情報の記録が終了すると、工事発注者（この事業では県教育委員会）に、調査区のお引き渡しをしています。その後、現地では順次校舎建て替え工事へと移行しているところです。

一方、埋蔵文化財調査は、外での発掘調査が終了すれば、すべて終わりという訳ではありません。最終的には**発掘調査報告書の刊行**まで継続して実施するのですが、それには**室内整理調査**を経なくてはなりません。「西二葉町遺跡発掘通信 No.1」でも触れたことではありますが、その後について、やや詳しくご紹介いたします。室内整理調査には、大きく三つの内容があります。

**一、発掘調査での記録類の整理** 記録類には、現地での実測図面・写真・文字記録があります。複数年、あるいは複数調査区にわたって実施している遺跡調査であれば、これらを報告者の方針のもと調査全体の中で再構成し、報告書に掲載する形に編集する作業をします。

**二、出土遺物の整理** 出土遺物は、いろいろな種類のもので、バラバラの状態で、かつ一括して取りあげられている場合が多いです。それを素材や各種別に従って整理して全体の傾向を把握し**【分類】**、その上で破片をつなぎ合わせたり**【接合】**、ものによっては全体の形状が分かるようにしたり**【復元】**します。その上で、資料がどのような形・大きさ（あるいはどの部分の破片）で、どのように作られ、使用されているかなどを、報告者が観察・評価した図面**【遺物実測図】**を作成します。また、写真も合わせて掲載することによって、質感や立体感など、肉眼の見た目に近い形状の記録も示します**【遺物写真】**。特に分類・接合・復元の成果は、発掘調査の記録類と照らし合わせることによって、遺跡の成り立ち**【形成過程】**を復元するための重要な手掛かりとなります。

**三、分析試料の理科学的分析など** 近年さまざまな理化学的分析により、遺物素材の由来や内容、さらには製作・使用年代など、これまで知り得なかった情報が数多く明らかになっています。機器分析であることも多く、研究プロジェクトとして遺跡横断的に実施されることも多いです。この分析自体、とても魅力的なものなのですが、分析に際しては、上記の一と二が着実に実施・遂行されていることが大前提となります。

# 西二葉町遺跡発掘通信

No. 7  
令和6年  
12月号

## 今年度発掘調査終了のご挨拶

令和六年度に計画されました現地での本調査は、十一月十四日をもって終了いたしました。期間中、明和高等学校関係の皆さまにご迷惑をおかけした場面もございました。重ねてお詫び申し上げます。それにも関わらず、関係の皆さまからの変わらぬ温かいご配慮を頂けたことで、埋蔵文化財調査としてはとても大きな成果をあげることができました。第一の成果は、江戸時代の成瀬隼人正なるせはやおのしょうなかつしき中屋敷関連の遺構群がとて良好に残っておりまして、屋敷地の構造を理解するためのとても重要な記録をとることができたことです。それに加えて、近代の愛知県第一中学校校舎跡をはじめ、当地の中等・高等教育の始まりを窺う資料も良好に確認されたことも大きな成果となりました。遺跡調査は来年度も予定されています。今後とも安全第一を肝に銘じて、実施していく所存です。ありがとうございました。

愛知県埋蔵文化財センター  
センター長 伊藤尚巳  
調査課長 樋上昇  
主任専門員 堀木真美子  
調査研究専門員 川添和暁

これらを統合して、遺跡自体を最終的に総合分析し、発掘調査報告書としてまとめ上げます。調査の報告**【事実報告】**に加えて、各種分析によって明らかとなった内容**【歴史的評価】**を加え、総合的な調査成果の公表をします。その内容によっては、今後の発掘調査および室内整理調査方法への新たな提言を行うという、いわば調査現場へのフィードバックを行うことにもなるのです。（川添和暁）



上：洗浄された出土遺物、下：乾燥後コンテナ内に収納された状態【いずれも西二葉町遺跡出土遺物】  
※遺物の洗浄は、発掘調査時に並行して実施することを基本としています。以降、本格的に分析を開始するのは、室内整理調査時となります。

## 西二葉町遺跡発掘通信 No. 7 令和6年12月号

編集・発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

### 愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24  
電話 (0567) 67-4161【管理課】4163【調査課】  
ホームページ <http://www.maibun.com>  
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>  
Instagram <https://www.instagram.com/aichimaibun/>  
X <https://twitter.com/aich>  
印刷・協力 安西工業株式会社

## 調査成果速報の公開・展示

調査成果の内容が最終的にまとめられ公開となるのには、四頁目に掲載したような室内整理調査を経て出される、発掘調査報告書の刊行を待つこととなります。この西二葉町遺跡の発掘調査に関しては、最速報の形で、この「西二葉町遺跡発掘通信」で随時お知らせをしております。今年度末（令和七年三月）には、当センター刊行の『年報』で、発掘調査時点での成果を概要報告いたします。この『年報』も愛知県埋蔵文化財センターHPからダウンロードができますので、よろしければ、合わせてご確認ください。

また、例年、年度初頭である四月初めに、弥富市の愛知県埋蔵文化財調査センター内では、「春の埋蔵文化財展」と題して、前年度の調査成果を展示するイベントが行われます。現在のところ開催内容の詳細は未定ですが、次回開催の「春の埋蔵文化財展」には、令和六年度に調査しました西二葉町遺跡の成果も展示予定です。開催の詳細は、令和七年三月頃に当センターHPでお知らせできるとお思います。

名古屋からは少し遠方とはなりますが、当センターの南側の河川敷は桜の名所となっております。もし機会がありましたら、桜の咲く時期に、当センターまでお越し頂けると、幸いです。

（川添和暁）



\*公共交通機関のご利用\*  
①近鉄名古屋線  
「近鉄弥富」駅下車 徒歩 15分  
②JR 関西本線  
「弥富」駅下車 徒歩 15分  
③名鉄尾西線  
「弥富」駅下車 徒歩 15分  
\*自家用車等のご利用\*  
東名阪自動車道「弥富IC」より、  
国道155号、  
国道1号を経て約10分

# 令和六年度の発掘調査について

五月十三日に24D区から始まりました令和六年度発掘調査は、十一月十四日に24C区を終えて、すべて終了いたしました。この紙面では、その成果全体をごく簡単にまとめてみました。(川添和暁)

## 24D区

表土直下で戦後の道の跡があり、その下では、愛知一中時代の学校校舎建物基礎がとても良好な状態で見つかりました。さらに下には、江戸時代終わり頃の整地層が見つかりました。明治初期の中屋敷解体時の廃棄層の可能性もあります。



愛知県第一中学校 校舎基礎検出状況【明治】(北西より)



調査区の土層堆積状況(北より)

## 24B区

最も広い調査区で、上から(一)現代の客土直下、(二)江戸時代の整地層下面、(三)江戸時代の建物跡のほか、江戸時代の成瀬隼人中屋敷関連遺構がまともな段階では、愛知一中時代の建物跡のほか、江戸時代の成瀬倉・室町時代以降に営まれた水田・畑地などの耕作地跡が確認されました。これらの中で調査の中心となったのは、やはり成瀬隼人中屋敷関連の遺構群でした。大きな河原石を根石にした掘立柱構造による屋敷建物跡のほか、地下室(ちかむろ)大型土坑、井戸、整地層などが確認されています。



上：江戸時代整地層(盛土)下 調査遺構写真(上が北) 下：細部写真(南より)【24Cc区】

## 24C区

昭和四十年代以降の学校関係の工事のため、愛知一中時代の学校校舎基礎の跡が部分的に残っていました。江戸時代の整地層(盛土)の下には、戦国時代以前の建物跡のほか、時期は不詳ですが耕作地(畑地)も見つかりました。



灰釉陶器 椀底部【平安：24Cc区】



成瀬家家紋【丸に片喰】軒丸瓦【江戸：24D区】



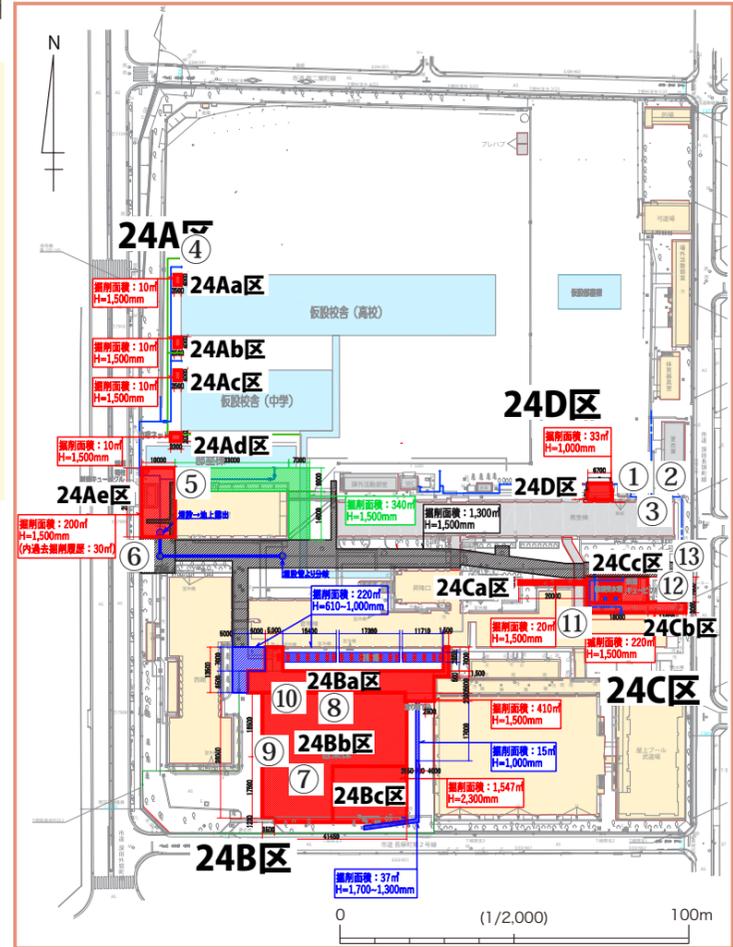
古代 土師器および須恵器出土状況【奈良～平安：24Aa区】



カマド跡付近土層断面【江戸：24Ae区】

## 24A区

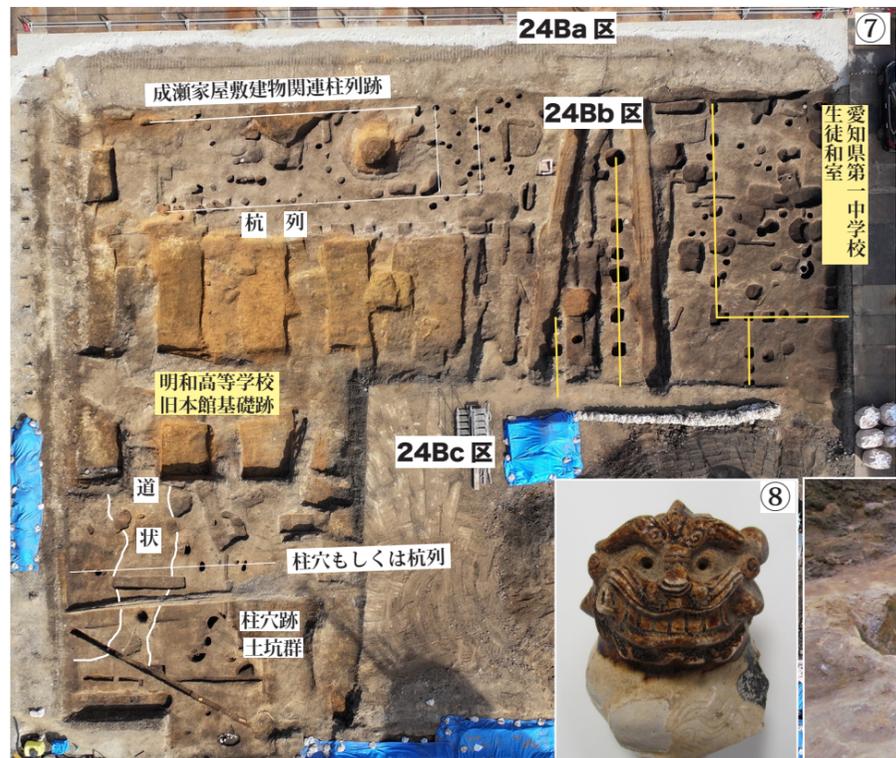
五箇所の調査区が離れて設定され、いずれの調査区でも江戸時代の遺構が見つかりました。最も北端の24Aa区では、最下層で奈良～平安時代の土師器・須恵器が良好な状態で見つかりました。24Ae区では、第一高等女学校校舎基礎跡の下に、江戸時代の屋敷建物や井戸やカマドなど、成瀬隼人中屋敷関連の遺構群が良好な状態で見つかりました。また、整地層の下からは大きな箱掘りの溝が見つかり、中屋敷造営以前の土地利用状況を窺う遺構として注目されます。



西二葉町遺跡 24区調査区位置図 (赤塗りが今年度の本調査区位置)



江戸時代整地層(盛土)下の遺構全体写真【24Ae区】(上が北)



江戸時代整地層(盛土)上の遺構全体写真【24Bb区】(上が北)



井戸内から出土した犬首【江戸：24Bb区】



大型土坑【地下室(ちかむろ)】【江戸：24Bb区】



シカ骨が出土した大型土坑【江戸：24Ba区】